

第7回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成25年6月25日(月) 18:30～20:00
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 藤永委員、服部委員、高橋委員、久田委員、本間(文)委員、尾崎委員、張山委員、尾居委員、菅野(博)委員、深川委員、部田委員、長澤委員、加藤委員、菅野(慎)委員
(計14名)
4. 事務局 網走市：大澤副市長、岩永企画総務部次長、日野企画係長、中村企画係主事
大空町：山本総務課参事、杉村企画グループ主査

開 会

【事務局】

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

定刻となりましたので、これより第7回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催をさせていただきます。

本日の懇談会出席者は15名でございます。

また5名の委員さんが、ご都合により欠席をされるというご連絡をいただいておりますけれども、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条の規定によりまして、委員の過半数以上に出席いただいておりますので、本会議は成立しておりますことをまずご報告させていただきます。

委嘱状の交付

(副市長から委嘱状交付)

副市長挨拶

【副市長】

皆様こんばんは。水谷市長が別途用務がございまして出席できませんので、只今、紹介いただきました副市長の大澤でございますけど、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は定住自立圏共生ビジョン懇談会に皆様方には、大変お忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には日頃からそれぞれの立場で、地域振興にご尽力いただいておりますことをこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

只今、皆様に委嘱状をお渡しさせていただきました。関係の団体から18名の皆様、また公募委員として2名の方にご就任をいただきました。

皆様には公私とも大変ご多忙なところでありますけれども、改めてご協力を賜りたいと存じます。

さて近年におきましては、人口減少、少子高齢化、地域経済の低迷など、様々な課題が地域を取り巻いているところでございます。

また公共サービスに対する住民のニーズも、それに伴い高度化・多様化しておりますことから、今後は様々な自治体との連携・協力のもと、自立した持続可能な地域社会の構築が、さらに求められているところでございます。

こうした中、定住自立圏構想は安心して暮らせる地域を形成し、定住のための暮らしに必要な機能をフルセットで確保していくという考え方から、地域の持続的な発展に大きく寄与するものと考えているところでございます。

この形成協定につきましては、平成 23 年に締結したわけではありますが、協定に基づいて策定されました網走市大空町定住自立圏共生ビジョンでは、圏域の将来像や両市・町が連携・協力する具体的な部分が掲載されておりました、行政運営の指針ともなっているところでもございます。

委員の皆様からのご意見等を伺いながら、時代に即した形での見直しが必要なことと考えているところでございます。

今回は、委員の改選もございますが、幅広い分野・視点から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、今後とも尚一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげまして、簡単でございますけれども、私からの挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

委員紹介

(事務局から各委員紹介)

座長・副座長の選出

【事務局】

それでは続きまして、次第第 4 の座長および副座長の選出に入らせていただきます。お手元の資料 1 「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱」をご覧くださいと思います。

要綱の第 6 条でございますが、規定されておりますとおり、当懇談会の議長は座長が務めるということになっております。

委員の改選がありましたことから、あらためて座長および副座長を選任いたします。

座長選出までの間、副市長が議長として議事進行をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

【副市長】

それでは座長選出までの間、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

始めに座長の選出についてであります。

懇談会設置要綱第5条の規定によりまして、座長は委員の互選にて定めることとしております。

どのように執り進めればよろしいかご意見を伺いたいと存じます。

【委 員】

事務局で提案がありましたら。

【副市長】

今、事務局で提案があれば出していただきたいというご意見がございました。

事務局から提案ということでいかがでしょうか。

（異議なし）

それでは事務局から提案をお願いいたします。

【事務局】

それでは座長選出の案を提案させていただきます。

座長といたしましては、東京農業大学生物産業学部の長澤委員を推薦させていただきますと思います。

【副市長】

只今、事務局から東京農業大学の長澤委員を座長にとの提案がありました。これでご異議ありませんでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは長澤委員を座長として選任することにいたしますので、確認の意味を含めまして賛成の拍手をお願いしたいと思います。

（拍手）

ありがとうございます。それでは長澤委員を座長に選任することといたします。

長澤座長には席の移動をお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。この後につきましては長澤座長に進行をお願いいたします。また、副市長ですけれども、用務の都合のため、ここで退席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは長澤座長に一言ご挨拶をいただきたいと思います。

【座 長】

座長を仰せつかりました農大の長澤です。どうぞよろしく申し上げます。

新しく始まった、新しい委員の懇談会ですけれども、特に地域を見ると待ったなしの状況がずっと続いているかと思えます。

そこで地域住民の目線で、新しい地方制度、あるいは産業振興、あるいは教育文化、医療、福祉、あらゆる方面について皆さんとご一緒に考えていきたいと思っています。

委員の人気は2年間ですので、皆さんのお知恵を拝借して、このビジョン自体がより深まっていく、そしてそれが実際の地域住民のためになっていくような形で進めさせていただきたいと思えます。

どうぞご協力よろしくようお願い申し上げます。

それでは懇談会設置要綱によりまして、私が議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくようお願いいたします。

引き続き副座長の選出に移らせていただきます。

副座長の選出ですが、先ほど懇談会設置要綱第5条の規定で座長が指名をすることとなっておりますので、私の方から指名をさせていただきます。

副座長は網走市社会教育委員の久田委員にお願いしたいと思えますけれども、よろしかったでしょうか。

(異議なし)

議 事

【座 長】

それではですね、次第に移りまして、議事に入りたいと思えます。

まず一番目、定住自立圏構想共生ビジョンおよび懇談会の趣旨説明を事務局からお願いします。

【事務局】

それでは、はじめに定住自立圏共生の基本的な考え方をご説明させていただきたいと思えます。お手元に少し厚手の冊子があるかと思えますが、こちらの1ページを参考までにご覧いただければと思えます。

委員の皆様には、すでにご承知のこととは存じますけれども、定住自立圏構想は総務省が推進している施策であります。

現在の課題として、先程、副市長からは、フルセットの行政サービスを確保する必要があるのだというお話をさせていただきましたが、現状としましては、人口減少・少子高齢化が進展する中で、なかなか将来的に単独の市町村だけではフルセットの行政サービスを確保出来づらくなってきているということがございまして、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として、定住に必要な生活機能である医療や福祉・教育・公共交通などを圏域全体で確保すること、それから自立のための経

済基盤や地域の誇りを醸成して魅力溢れる圏域を形成していくことを目的とするものでございます。

実際の定住自立圏ですが、今ご説明をさせていただきました構想に基づきまして、中心市と周辺市町村が協定を締結し、形成をされる圏域ということになります。

中心市は生活に必要な都市機能が一定程度集積をされていて、周辺市町村に都市機能が及んでいる都市でありまして、人口それから昼と夜の間の人口比率などの要件を満たすことが必要とされています。

北海道では、平成25年3月末現在で13の都市が要件を満たしておりまして、そのうち網走を含め9つの自治体が中心市としての宣言を行っております。

また周辺市町村につきましては、中心市に近接するとともに経済・社会・文化そして住民生活などが密接な関係にある市町村というふうにされております。

この他、中心市への通勤・通学割合などの要素から判断することとなっております。

これをうけ、お手元の冊子1ページ目に中段に記載をしておりますが、網走市では平成22年の9月に中心市の宣言を行いました。

周辺自治体との協議を経まして、大空町との間で平成23年3月23日に定住自立圏形成協定を締結いたしております。

協定の内容につきましては、お手元の資料2-1の通り、協定書の写しをお配りしておりますけれども、ページ順に必要な生活機能の確保に向けて、協定書の1ページに3つの政策分野と各分野における取組みについて、さらに資料2-1の3ページ以降と資料2-2に記載をしておりますが、取組みについて規定されております。

また定住自立圏形成の目的・メリットの一つといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたり、事業にもよるわけですが、優先的に採択されるなどの優遇措置がございます。

各分野での事業実施に係るハードルが、これによって下がるということがあげられるというふうに考えております。

ここまで、定住自立圏構想の概要について説明をさせていただきました。引き続き共生ビジョンおよび懇談会の趣旨について説明をさせていただきたいと思いますが、この冊子の2ページ目をお開きいただきたいというふうに思います。

まず定住自立圏共生ビジョンについてですが、これは総務省の定住自立圏推進要綱の中で定められておりまして、協定において形成された圏域全体に係る将来像、おおむね5年間にわたる各市町村の具体的取組みを記載する事業計画の位置付けということになります。

また、今申し上げた推進要綱ですけれども、共生ビジョン策定にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市・町にて協議をすることとされておりまして、毎年度所要の変更を行うものとされております。

これをうけまして、網走市と大空町におきまして平成23年3月の協定締結以降、懇談会を設置し、公募委員を含め各分野からご就任いただいた委員の皆様のご意見を

頂戴しながら、平成 23 年 9 月に網走市大空町定住自立圏共生ビジョンを策定いたしましたところでございます。

また毎年度の所要箇所の変更といたしまして、平成 24 年度につきましても 2 回の懇談会を経まして、平成 25 年、今年度の 1 月に第 1 回の変更を行ったところでございます。

こうしたことから、新たに就任いただいた委員の皆様のご意見をこの懇談会でお伺いしながら、本年度の共生ビジョンの所要箇所の変更作業を進めて参りたいと考えております。

定住自立圏構想共生ビジョン及び懇談会の趣旨につきましては以上でございます。

【座 長】

只今、事務局から定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨について説明がございましたけれども、いまの説明でご質問あるいはご意見等ありましたらどこからでもよろしいので、基本的な部分の確認ですのでどうぞよろしくお願いします。

今回、相当委員さん入れ替わりですか？

【事務局】

はい。半分くらい。

【座 長】

半分くらいですか。初めての方もいらっしゃるし、過去 2 年間やってこられた委員さんもいらっしゃるんですけども、どなたからでもよろしいのでご質問等ありましたらどうぞよろしくお願いします。

(質疑なし)

よろしいでしょうか。

【座 長】

では、引き続きまして議題 5 の 2 番目ですね、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定につきましても、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

まず初めに、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定・変更にあたっての基本的な考え方ですけれども、今回の懇談会と次回 10 月に予定しております 2 回目の懇談会での検討をふまえて、今年度のビジョン変更を行うという予定になっております。

今回はその変更案のたたき台として、文章の記載それから統計資料や各分野の事業費など修正箇所を朱書きで掲載しておりますので、そのような形でお読み取りいただ

ければと思います。

各章ごとに説明させていただきますけれども、1 ページ第 1 章につきましては先ほど基本的な事項でご説明した内容でございます。

本ビジョンの計画期間は策定当初に定めた平成 23 年度から平成 27 年度となっております。

基本的に変更点はありませんけれども、一部表現を修正してございます。

続いて、第 2 章 2 ページから 17 ページにかけて、圏域の概況と現状を記載しております。計画の基礎となる統計データなどの更新をしているほか、計画の進捗に即した形で現状と課題について修正を加えている部分でございます。

次に 17 ページをお開きいただきたいとおもいますが、17 ページから 18 ページに第 3 章として圏域の将来像の記載をしております。ビジョン策定当初からの目指すべき地域の姿を表しております、ここについては修正を加えておりません。

続きまして第 4 章は、19 ページから 36 ページにわたって記載をしております。

協定に基づいて推進する 25 項目の具体的な取り組みを記載しております。

また第 5 章につきましては 37 ページ以降になりますけれども、第 4 章で掲載しております具体的な取り組みと関連した個別の事業一覧となっております、各章それぞれ平成 25 年度以降の予算額を修正しております。

個別の修正につきましては、箇所数が多いので省かせていただきますけれども、事前に資料をお読み取りいただいているという前提で、ご不明な点がございましたら、後程ご質問いただければと思っております。

このほか平成 24 年度の各事業決算額につきましては、みなさんご存知の通り 9 月議会を経て公表されるものでございますので、今回は事務局案に反映できておりません。従いまして次回 10 月の懇談会で対応させていただきたいと考えております。

以上、共生ビジョン改定案としてのたたき台の説明をさせていただきました。

ここで欠席されております委員の方から、事前にご意見をいただいておりますので、その内容についてご報告させていただきたいと思っております。

網走市社会福祉協議会の本間委員からのご意見でございますが、20 ページをお開きいただきたいと思っております。

記載の具体的な取り組みの表にあります「補助事業等の名称等」の欄でございます。

この欄についてはすべての事業に記載がございません。そのために削除してはどうかというご指摘をいただいております。

ビジョン策定をしたときに、この欄を設けた理由をまずご説明させていただきたいと思っておりますが、こちらは各事業における国や北海道からの補助金等を記載して、確認するためのものとして設けておりました。

その理由として、定住自立圏を形成したメリットとして先程あげましたが、国からの財政措置があり、年間で中心市に対して 4000 万円、周辺市町村に対して 1000 万円を上限とする特別交付税が措置されます。

この場合ビジョン掲載の事業費が算定基礎となりますけれども、すでに国などからの補助金が入っている場合については、その額を除く分が対象となりますので、各取り組みの事業費財源の内訳を明確にするため、事務的に活用するためものとして設けたということが経過としてございます。

本間委員さんからのご指摘を受けまして、事務局として検討させていただきましたけれども、実施計画としての位置付けで公表されております共生ビジョンに事務的な確認項目は不要ではないかということで考えまして、削除する方向で執り進めたいと思っております。

従いまして委員の皆さんにご確認いただければ、次回の懇談会ではこの箇所を削除した変更案として提示させていただきたいと考えております。

【座 長】

ありがとうございました。網走市大空町定住自立圏共生ビジョン改定案に関しまして、事務局から説明いただきました。

今日お集まりの委員の皆さんはそれぞれの分野で、地域活性化にご尽力されていらっしゃるかと思います。

この定住自立圏自体は、将来を見据えたものでございますので多くのご意見を賜りたいと思います。

なお先ほどの20ページ以降の補助事業等の名称等の削除箇所はよろしいですね。

実際にこういったビジョンを、この場ですべてを網羅してプランニングしていくのは非常に物理的にも難しいことですので、各分野それぞれの立場で考えておられる地域の課題に関して、お話いただくということ。それと併せて他の分野、ほかの分野における課題の情報共有をするということで、問題解決といえますか、そういった新しいアイデアを生み出すヒントを得る。

そういう場にしていきたいと考えております。

そうしたご意見を、網走市・大空町それぞれに持ち帰りまして担当部署で検討の上、広域的な取り組みに関して課題解決を図ることが出来るのであれば、事業として共生ビジョンに加えていく、というような段取りで考えていきたいと思っております。

そこで、それぞれの立場・分野から地域の課題に関して、このビジョンが策定されたのが平成23年ですけれども、その後2年間の時間的な経過もあると思っておりますし、状況的な変化もあるかと思っておりますので、そういうことを含めまして、ご意見・ご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。

いかがでしょうか。どなたからでもよろしいのでどうぞ。

ご意見・ご指摘をよろしくお願ひいたします。

【委 員】

よろしいですか。

【座 長】

はい。お願いします。

【委 員】

まず 12 ページに医療の分野ということで、現状と課題というのが書かれています。私 2 期目の委員やっていますが、1 期目の時にもちょっとお話したのですが、ここに書かれているこれからの課題とあるのですけれども、今私たちがやっていることから見ると後追いの状況なんですね。

というのは、5 年前にですね斜網地区自治体等広域医療協議会というのが出来て、そこは 1 市 4 町の首長さん、それから斜里国保の院長・小清水日赤院長と私が入って、そういう形でこの斜網地区の医療をどうするかっていう話を全体的な医療を含めてということで、ずっと話合いをやっていました。

その一環として、5 年前から 3 年間、救急医療を充実して確立させようということで色々な講演会とかをやってきました。

で、2 年前からですね一応救急医療はずっと継続してやるのですが、フォーラムとしてやるのは、そこで 3 年間やったので一応置いて、今は地域医療連携にこの 2 年間取り組んでいます。

それを行政と病院・診療所・それから色々な老健とか特養も含めた施設、そこで患者さんが、患者難民にならないように、施設を出た後その人の状況はどうなったか、あるいは病院を出た後その方がちゃんと施設でどのような対応をされているかということを中心に情報を共有化しようということで、今、ネットワークづくりをこの 2 年間やってきている状況なんですね。

ここはいま網走と大空町ということですがけれども、それは斜網地区ということになっているので、大空とこの中の話題でもいいのですけれども、残念ながらそういうのが、この中にはまだ入っていないんですね。

その医療連携の、老健と病院・診療所との情報の共有、それを行政もきちんとつかむということが、それも 2 年間でだいぶ話し合われてきて、目に見える形で後 1、2 年でやろうということでは動いている状況です。

ということで、あの今ここに書かれていることは書かれていることで良いんですけども、そういう意味で、もう少し違う分野の方でもっと先に話し合いが進んでいっているというのにもちょっとお話させていただきます。以上です。

【事務局】

先ほど座長の方からもお話があった通り、具体的な課題につきましては、それぞれ持ち帰って所管の部局におろしたうえで検討したいというふうに考えておりますが、この現状と課題のところ、今、お話があった通り、今までは救急医療について、医師会の違うエリアだったけれども、定住自立圏の枠組みの中で、救急医療の体制を

整理していただいて、ようやくスタート地点についたというところが実はかなり重くありまして、まだまだ救急医療についても課題があるだろうという認識が一つです。

それから、今お話がありました地域医療連携のネットワークづくりにつきましても、最終的には在宅医療をどうするのかといったことになるかと思いますが、そこについてもそれぞれの町では大きな課題として捉えているということがございますので、ここに反映できるように原課と協議をさせていただければと思います。

【座 長】

あの、今おっしゃった、例えば財政措置があったんですね。どうもそれはある意味、もっと言えば行政的には厚労省管轄でそういう事業が展開とかってなっているんですよ。

【委 員】

中にはですね、地域医療再生計画で億の単位が下りてきている地域もあるんですね。ここでは北見市がそれを中心にやっていますけれども、まあ斜網地区はまだそれはやっていないのですが、そういう財政措置もあります。

【座 長】

厚労省ですか。

【委 員】

そうですね。厚労省ですね。

【座 長】

だから、拠点病院を造ったり、全国でやっていますけれども、おそらく縦割り行政の塀といいますかね、これは総務省なんですね。国土交通省も入っていないし、そういう意味では、総務省の枠内での定住自立圏構想ということで。

でもそれは、ここに書き込むことはいいと思うんですね。こういうふうに先生も動いているし、そういうものとリンクしながら地域医療の充実のためにこういうことも考えてます、と書き込めますよね。

今おっしゃったことを少し書き込んで、あるいは女満別の病院もそうですね、たぶん縦割りで所管が違ってくると、そのへんがどう整理するかですね、どこまで書き込むのかちょっとと。

でも実際、現場は一つなので、所管が違うから別々だということにはいかないというふうに思うんですよ。

その辺少し整理して、調整しないとならないと思います。

今のお話されたようなことで、いろんな分野で今実際に進められているとかですね、

あるいはこういうことがあるとかですね、この2年間に限らず、各分野がございましたら、どうぞご指摘いただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

産業振興でございますでしょうか。

【委員】

敢えてといいますか、見ている中で、前回勉強不足だと思うんですけれども、大きく分けて一つは生活基盤の強化にかかわる具体的取り組みということと、そして、結びつきネットワークの強化ということでテーマがあるのですけれども、その中でですね、一つ目の生活基盤強化にかかわる具体的取り組みということで23ページに広域観光というひとつの括りがあります。

もう一つはですね、二つ目のネットワークの中にですね、33ページで移住の関係がありますし、そして34ページで交流人口の拡大ということがあるんですけれども、そしてスポーツ合宿のどっかにあったと思うんですけれども、これら大きな1番2番の括りから想像がつかないんですけれども、要は観光って概念があると思うんですけれども、これって一つにならないのかって、分けられている意図というんですかね、要はこの広域観光だけがこの生活機能の強化に関わる具体的な取り組みの中に入ってきているんですけれども、たぶんこの視点によってかなり捉え方が変わってくると思うんですね。

広域観光と交流人口を増やそうということがですね、中身的に一体的に思うんですけれども、視点が変わってくるということが敢えて意味合いがあるのかと思ひまして。

【座長】

財政措置が総務省からあって、おそらくその事業ごとに組んでいくっていう仕組みを取っているこの制度自体が。そうすると実体的にはリンクしている、絡んでいるわけで、実体的に事業を進めなきゃいけないんだけれども、財政措置がらみで寸断されたというきらいがなくはないと思うんですね。

でも、そこは実際のところ、少し精査しながら、今、委員おっしゃったように考えなきゃいけないのかもしれないですね。

【事務局】

今の件についてですが、今、観光という分野も非常に幅広くなっており、例えば、農業景観や農村へのホームステイ、修学旅行など、非常に幅広い分野で観光とのつながりが生じており、その地域の生活に密着してきているところです。

また、そこから次の移住に結びついたりするというきっかけにもなっております。そういう意味では、観光は今までよりも、交流人口をとという形につなげていくことが大きいのですが、そういう方々が色々なきっかけでこちらの地域に住み、新たな産業を生むということで、それが様々な分野に波及していく。

これらが地域の生活にも密着しているということで、観光ではなく交流に入っているという表現で、観光というどうしても分野が限られるようですが、最近は色々な他の分野に、波及効果があるということで、このように掲載されているということをご理解いただければと思います。

【委員】

ですから、観光っていう分野を一つ作ればということで、あえて二つに分けるといふ視点がなんかしっくりこないんだっていう意味なんです。

今、事務局おっしゃったように交流人口拡大ということと観光はイコールだと思うんだけど、1番と2番というふうに大括りの中で視点が分かれているということで、なんか観光が寸断されているという気がしたものですから、そんなことでした。

【事務局】

たぶん、観光はもっと横断的に結びついているというような書き方になるのですが、表現的には、この様に分野に分けているところが現状でありまして、おっしゃる通り、まだまだ複雑なところにネットワークは広がるのではないかと思います。

そういうことも含めて、色々な分野に波及するものをどうやって表現するのかは、事務局の手腕になると思いますので、これから検討させていただきたいと思います。

【座長】

おそらくそのへんまだまだ詰めていかなければ、生活基盤・産業・観光・教育ですね、色々な形でですね整理された方がいい中身、特に19ページの第4章の最初の図で示されている中身も色々な形で相互の関連性ですね、有機的な関連性がもう少しきちんと整理した形で事業展開していくというかしますかね。

今事務局もおっしゃったように、きっかけになる部分だとかその中身になる部分とか様々だろうと思いますので、それはまた併せて色々ご意見いただきたいと思っておりますけれども。

【委員】

簡単に言うとですね、人口流出を止めましょう。

そのためには人材やら医療を確保しなければ人は住めません。

ちょっと言葉は乱暴かもしれませんが、そういうのをお互いに共有し合いましょうとか、地域間格差を少しずつでも協力して減らしていきましょう。

医療がなければ人は住めないよということを踏まえて人材を、たとえば先生方を含めてですね、そういうことなのかなと思って一応読ませていただいたんです。

ちょっと1年目で解らないんですけども、例えばそこに住もうとするときには出産・子育て・教育が大きなウェイトを占める。

青年期になりますともう一つは就職だとかそういったものが入ってくる。高齢者になれば医療だとか、高齢者に限らずですけど、医療とか福祉が入ってくると思うので、ちょっと読ませていただいたこの中に、子育て・教育っていうのが若干少ないのかな。

社会教育は出ていますけれども学校教育、それと子育て支援も社会教育の中に入っていますけれども、若干少ないのかなと。

逆に言うと教育を取り上げていないのはなんか理由があるのかなという質問が一つですね。

で、18 ページに、まとめると「安心して子育てが出来る環境と整え、子どもや若者が夢を持ってこの地域に住み続けたいと思う」という中に、やはり子育てやら教育やら産業は入っていますから、就職も入ってきますし、老齢期には福祉・医療という形を網羅しているんですけど、なんとなく教育がちょっと足りないのか、抜けているのかまあ学校教育は入りづらいのかっていうのが、ちょっと疑問に思ったものですからそのへんを一つ質問したいかなと思いました。

【事務局】

網走ですけども、今、委員から言われたその人口流出を止めるという部分で生活基盤をどうしていくのかという部分については、例えば、医療については少なくとも一次医療については各自治体が責任を持って整備すべきという整理が一つあると。

そのうえで広域的な2次医療や3次医療をどうしていくのかということ、1自治体では解決できない課題ですから、どう整理していくことなのかなというふうに思っております。

学校教育につきましても同様の考え方として、いわゆる義務教育が自治体が責任を持っているわけですけども、そこはまずは各自治体が、そして広域で連携できる点があるのかといったこれまでの議論の中で具体的に提案がなかったという部分だと思いますので、もしそういう連携の仕方があるのであれば、提案いただければ議論になるかなと思っています。

特に社会教育との比較ですと、定住自立圏が出来る前も比較的広域での取り組みが多い分野だというふうに私も行政経験の中で感じていますので、そういう面で社会教育に限れば、網走と大空というくくりは逆に範囲が狭まっているというふうにお感じになる場面も出てくるのかなという気がしています。

子育てについても学校教育と同じような考え方ですけども、今、網走の中では待機児童は保育園に入れたいという方は現在ではいらっしゃらないですけど、これがまた状況が変わってくると周辺の町との連携などもお願いしないと、中々解決してこないのかもしれないというような感想は持っています。

【事務局】

大空町でいきますと、今の学校教育、特に高校に関しては、本当に網走市とは密接な関係があります。

大空町には二つの高校がありますが、実は網走市から沢山の方が通学しており、大空町の女満別・東藻琴地域からは網走市の学校に通学しており、交通機関を通じながらお互いに通学をしている条件でいけば、隣町にそういう教育機関があることで、行き来をしているというのが現実でありまして、私も網走の学校に通学しておりましたが、そういうふうにお互いに教育機関があるということと、そこに通学できる手段があることが、今、両地域を密接に感じている、まさしくこの定住自立圏の要件である通勤・通学割合というのがまさしく物語っており、お互いに補完できる立場にあるのではないかと思います。

なかなか数字として具体的には書いておりませんが、実際にはそのような教育の流れ方をしているのが実態にありますので、そのへんは作文が足りないのかなと思いました。

【委員】

今、事務局がおっしゃる通り、大分そういうことで動いている、交通機関も使われているという状態があるので、まだまだ強化・連携すべきことが多いのかなって、まあ子どもは少なくなってきましたけれども、そういうのも出来れば少し要素を入れていただけたらなと思います。

もう一つこれは細かい文言なんですけれども、12 ページ下から 2 行目「女満別空港の国際チャーター便～」から次のページの 13 ページ 3 行目まで、ちょっと自分観光やっているんで特にちょっと気になっているんですけれども、言葉が繋がっていないかなと、特に「女満別空港の優位性を図ると共に」という、「チャーター便が激変している中で北海道に空港着陸料の全額免除など女満別空港の優位性を図っている」という記載は、文章としてちょっと自分は意味がわからなかったんですけれども、そのへんのところは、質問ではないですが、ちょっと検討していただけたらと思います。

【委員】

あの先ほど、おっしゃられたように確かに教育分野ではちょっと文言が薄いかなという気がするんですけれども、私 4 年間、帯広美術館の運営委員をしております、ここには網走市には美術館がありますよね、市立美術館。それがあの例えば道新の週末の各全道の美術館ですとか博物館のイベントなどの開催の中に網走市立美術館は抜けているんですね。

だからそういう中で大変貴重な帯広と旭川の道立の間に空白の、立派な博物館はありますけれども、そういう中で大きな例えば有名なものは持ってくるだとかはできな

くても、やっぱり地域の近郊の人たちがですね常に活動が出来るですとか、もう少しアピールをしていくようなものが道立美術館および市立美術館ですね。

そのへんのことやなんかもやっていけたら、この中で今やられているイベントですとかなんとかですとも、年度でそれぞれの町・市が決めてしまったことの交流だけですから、そういうのでは事前にじゃあ話し合いがあったり、本年度はこんなこと来年度こんなことしていこうとかかっていうのは事実・実際としてはないですよ。それでこういうのがありますからいらっしゃいませんかみたいなことだけなので、これだと将来像に向けて同じだよなって思いますので、なんかそこで一つこうそれを乗り越える方策とかそういうのはないものなのかなという感じはします。

【事務局】

いわゆるその美術館同士の情報交流の中で、事業整理をしていくだとか、もれなくだぶりなくみたいな形の事業展開というのでしょうかね、そこについては美術館・博物館の範疇なので、全道の博物館のネットワークがあると思います。

その中で、道立の中ではネットワークはある程度あるのかもしれませんが、そこに市立や私立の美術館、例えば六花亭だとかっていう美術館がありますけれども、そういうところがどういうふうに位置づいているのかということは実は事務局としては承知しておりませんので、そのところを原課に確認をして、もう少し事業展開、事前の整理というんでしょうか、ができるような仕組みができるのかどうかというあたりは、おろしてみたいなというふうに思います。

【事務局】

行政としてもまだまだ情報不足だったなという気持ちであります。

これからの検討になると思いますが、私は広報の担当をしており、例えば、広報で定住自立圏の情報コーナーとして、大空町の人に網走市美術館の展示など、お互いの情報を掲載するとか、両市・町がやっている事業を共通で知ってもらうこともひとつだと思います。

たまたま大空町では、一昨年から広報の見直しを進めており、どんどん誌面を変えていこうと工夫しておりますので、そんなことも考えられればと思っておりますので、またご意見いただければと思います。

【座長】

今のお話で、おそらく定住自立圏自体は、広域連携の新しいやり方を模索しているわけで、つまり、様々なことに関しては基本的には基礎的な自治体が一時的にやるといことで、もちろんそれで足りないとかですね、あるいは不足するとかですね、あるいは相乗効果でよりレベルの高い展開をしていくってときにこれが生きていくメリットがあると思うんだけど、ただそれが逆に二つの網走と大空町に限定しち

やうことによってむしろ狭めちゃう、本来もっとよくやっている話がね、狭めちゃうっていうきらいもなくはないと思う。今事務局が特におっしゃったようにね。

だからそのへんの交通整理をきちんとしなければ、なんかこう本来もっと幅広く開けているものだけでも、二つにこだわっちゃうとむしろ狭くなっちゃうと、というきらいはないんですかね。

まあ、分野によっても違うと思うんですけど。

【事務局】

先程、斜網という広いエリアでの医療の話もできました。

優位性をいかに利用するか、強さを上手く利用しなければならないなと私も十分思っています。

お恥ずかしい話ですけれども、まだまだ両市・町の担当者同士もなかなか会う機会が少なく、顔を合わせたばかりでなかなか進めてないですが、これによってお互いの両市・町の担当者の顔がわかり、コミュニケーションが取れてきました。

ただ、もう一つでこのエリアとしては、オホーツクという広いエリアもあります。

例えば、情報出す分野としては、各市・町の広報だけではなく北海道が出す広報など、様々なものがあり、こういうものをきっかけに広めていって、新聞を巻き込むだとか、色々な民間誌を巻き込むだとか、やっぱり行政だけの問題だけでなく、周りの色々な機関も含めて、なるべくネットワークをやっていけるようにしなければいけないと感じましたので、これから少しずつ考え方を変えながら、やっていかなければと思います。

【座長】

それではそういうことで、その他の分野でもよろしいですけれどもございませんでしょうか。

【委員】

私も特別、観光が専門ってわけではないですけれども、今言われている通り、広域観光とここに書いてありますけれどもたしかに座長が言われる通り、語弊があるでしょうけれども自画自賛が少し強すぎるかなというところが大いに考えられますし、ここでその外国人観光客の減少そういった面があります。

まあ女満別空港、大空町にありますけれども、どうしても空港メインにプロモーション活動を行っているのが現状なんです。

たしかにそれも必要なんですけれども、実際問題として、やはり広域の自立圏構想の中で、やはり網走・大空の、わたしの中で主たる観光地との連携・情報交換が一番大事だと思うんですね。

自分のところにきて泊まるんだ、泊まらせるんだというのがあまりに強すぎると比

較的こういうふうにはならないと思うんですね。

ですから、例えば釧路圏だとか、あるいは地方圏とやはり連携することによって、それによってまあその確かなものはありませんけれども、確実なものを観光地として位置付けるという方がいいと思います。

それは何かというのは即答できませんけれども、まあこの時代ですし、高速もおそらく後5年10年するとおそらくどんどん出て行く観光になりますんで、道路もよくなるということは入ってくることも考えなきゃならない。

入って来られる魅力を作らなきゃいけないというのが観光の位置づけだと思うんです。それが何かってことは、まだ私の能力ではまだわかりませんが、それによってやはり定住してもらおうということのアピールをした方がいいと思います。

やはりあの形をつけて魅力あるそしてPRが第一かなと思います。

今回、富士山が世界遺産となったということで、お客様倍増するというようなお話がありますけれども、まあ一過性かどうかというのは別としてそういった考え方がやっぱりあっていいのかなと思います。うまく言えませんが。

【座長】

いえいえ。おっしゃる通りだと思います。ただそこは、この事業の枠内に収める部分とそれからやっぱり物事の考え方みたいなですね、発想といいますか、それはあのものすごく幅広くウィングをいっぱい広げてですね、考えてこの事業にじゃあなにを仕組むかというのは別の考え方ですね。

【事務局】

広域観光ということでは、大空町は空港がありまして、空港整備・利用促進協議会やチャーター便誘致協議会、ひがし北海道観光事業開発協議会などの色々な幅広い会議があります。

そんな中でも、空港の利用者が減ってきており、ただ、女満別空港は、女満別空港を発着するお客さんが少なく、釧路空港とはすごく相乗効果がでると考えております。

釧路に着いた人はこのエリアに来る、女満別に着いた人は釧路のエリアに行くという、やっぱり空港から一番先に離れたいのです。

そういう意味で周遊観光が非常に強いということで、今、釧路空港エリアで非常に多いのはバードウォッチング、それからロングトレイルを歩くお客さんが増えてきており、リピーターになるそういう方々の掘り起こしをどうしようかと水面下で色々練っております。

ただ、この網走市と大空町だけの問題ではなく、広くというものですから、まだネットワークで表にだしてないのはあるのですが、今それをなんとか組み入れたい。

また、もう一つ、サイクリングというのが非常に注目を浴びてきており、これも広域になっています。

そういうものをいかに取り入れてやろうかというのは、ここにはまだ書けていない部分でございますが、ひそかに着実になんとかしたいと今、動きをしているのが現実ということだけ報告させていただきます。

【座 長】

まあいずれにしても 19 ページのこの取り組みの体系ってございますけれど、それぞれの協定分野・協定事項具体的取り組みで具体的事業としてずっとこう 25 項目並べてございますけれども、この辺もですね、今のお話も少し広域的に物事を考えながら、この二つの町と市で定住自立圏をどういう形で作っていくかということですね、事業として具体的にどう仕組むかっていうのは、またもっともってそれぞれの分野で検討していただかないといけない事項だと思いますけれど。

まあいずれ 10 月の次回の委員会までにそれぞれの分野で色々議論いただいて、より豊富な中身の提案をしていただくというふうになろうかと思っておりますけれども、あとそれぞれの分野でこれだけはあるというのがありましたらいかがでしょうか。

【委 員】

あの、他のことがわからないもんですから、ひとつ、この体系の中でですね、産業振興っていう部類に入るのか、あるいは人材育成に入るのかわかりませんが、最近建設業の方々ですね俗にいう職人さんっていうか特に鉄筋工の方々だとかあるいは大工さんだとかの方々、要はなり手がいないんですね。

そんなようなことがあって非常に今人手不足がなくてですね、各業界の方々それぞれ学校訪問なりをして、そういう機関をぜひということなんですけれども、いかにせんやはり起業としてはどうしても冬場ですね、失業状態となるということで通年雇用がなかなかままならないということはどうしても、子供さんが逆になりたいとしても親御さんが喜んで後押ししないとということもあってですね、非常にこれからそういう職人さんっていうのは不足してくる、目に見えて現在も不足しているんですけれども、5年の中でなんか取り組めること、例えば、今企業さんが通年雇用するための例えば冬場のなにか、一部企業では除排雪をやったりして雇用をつなげたりしていますけどね、

そのような、人材育成とか雇用ですね、なんかそういう支援的なものは広域で、可能なのかどうなのかなと思ひまして。

【事務局】

今、委員さんからご指摘いただいたように非常に深刻な状況になっておりまして、網走市だけで申し上げますと 60 人いらっしゃる技能職の方の半数がすでに 65 歳以上という実態でありまして、そういう方たちが一般家庭の建築などに携わっていると。

今後、ある程度の高さ規制の中では、その現場に携わっていただくことが、どんな

に元気であっても、法的にはそこに携わっていただけないという状況がでて来ますので、まず物づくりということの魅力というものを子ども達に知ってもらおうという取り組みが、ごくわずかではありますが網走では始まった。それから、そういう物づくりにかかわる職人さんの雇用していただける事業者へのインセンティブをどうしていくのかという議論が始まったという段階かなと網走では思っておりますけれども、あるいは技能者への研修を広域的にやれるのかどうかといったところも、会議所さんや商工会の方たちのご協力を得ながら進めていくということは可能性としてあるんだろうなというふうに考えております。

【座 長】

今どんどん海外に行っちゃってる企業は、物づくりの技術伝承がね、担い手がいないっていうですね、あらゆるところに農業もそうですし大変重要な問題ですし、その点どうですか、そういう物づくりなどですねそういう技術とか産業振興の面で日頃悩んでらっしゃるとかあるいは課題として考えていらっしゃるとか。

【委 員】

あの私今回が初めてで、何を話していいのかというところですが、網走と大空町の広域についての何かの取り組みが、まあテーマなのかなという感じがするんですけども、今言ったようにその後継者不足といたらおかしいですけども、商工会としては西通りってありまして、今日ちょっとたまたまお客さんと色々話していたら、はたしてその後継者が西通りにいるのかというようなちょっとお話が出まして、数えていたら、20店舗くらいあるんですけども、その中で後継者と言ったら1人か2人くらいかなって、そうしたらそんな状態が続くと本当に町自体が商店街っていうかその形成できるのかなって、そんな話が出ましてですね。

まあ商工会の仕事って言われたら商工会なんですけれども、町には色々とお世話になって今プレミアム商品券事業とか、昨年ですね、今までスタンプ事業をやっていたんですけども、今にマッチしていないということで、ポイントカード事業ということで去年予算をいただきましてですね、加盟店が今の倍になったというか、当初スタンプ会が30件だったんですけども、今は60件にもなってまあこれがひとつの歯止めになるのかなったら、これはちょっと違うと思うんですけども、なるべくその消費を地元でやっていただきたいということで今やっている最中なんですけれども、今後そうしたらその街並みを形成するにはどういたらいんだということになれば、ちょっと今私自体ですねどうしたらいいのかっていうのはですね、わからないっていうか、ちょっとそこらへんが大きな課題なのかなというふうには思っているんですけども。

【事務局】

本当に商店街の再開発ということではどこの地域も大きな問題で、オホーツク管内にしても各地・町の中では市街地再開発ということが題材で色々とやられておりましたが、お店や街並みを新しくしても収益にはなかなか結びつかないというふうに大きい問題がございました。

やはり地元消費をいかに充実させていくかと、先ほど張山局長が言いましたポイントカードというものをやっていますし、それから先ほどの技術職で言いますと、大空町もリフォーム事業というものをやって、今は新築よりはリフォームする方が多いということで、こないだも大きな金額を補正させていただいております。

やはり、その町としては地域の産業をどうやって支えていくか、そのために町も努力するかということで、これからいろいろなことが出来ると思います。

また、各地には住宅に関する色々な課題も沢山あります。廃屋の問題だとか色々抱えていて、今、地域の景観形成も含めて大きな課題もあります。

そういうことを考えて、次の世代にどうつなげていくかと、色々な形で網走市と連携してやらなければいけないというふうに考えておりますが、まだまだ大きい課題なので、5年では難しいかもしれないですけども、これからそういう課題があるということを考えて、担当課を含めて、十分協議をさせていただければと思います。

【事務局】

網走はということではなくてですが、6次化産業っていうのは座長がご専門だと思うんですけども、この地域の再生ですとか、地域活性化をどうするかっていうことを考えたときにマイナスのものを0にする、あるいはいくらかのプラスにするという考え方もあるかもしれませんが、網走市としては、強みのあるものをさらに磨きをかけるといったところに活路を見出せないだろうかというふうに考えております。

特に1次産業については、就労人口については、もちろん自然減も伴って減ってはいますけれど、生産性が下がっているかというのと、そうではないというふうに思っております。

漁業についても農業についても好調だというふうに思っております、製造業についても製造品の出荷額をみても落ちてはいないわけですね、この数年間を見ると。ということ考えるとそういう強みを1×2×3というんでしょうか、その中で新たな雇用・就労機会が生まれる、あるいは公共事業が確保されるというような手立てができないだろうかといったところに着目をしていけないだろうかというものが、網走としては一つの方向としてっておりますので、そんなことも広域でできないだろうかという思いがあります。

特に網走湖をフィールドとして、漁業で言えば新しい業種の研究ですとか、漁場造成ですとかというのがありますし、農業でいけば小麦を、地域を集積をして6次化へ向けることができないかっていうような議論もされていると聞いていますので、そこ

が一つのきっかけになるのではないかというふうにも考えております。

【座 長】

はい。今出ました1次産業、もしこの定住圏に盛り込むべき内容として、ご指摘ございましたらご自由にお願いたします。

【委 員】

私も今回初めて出るものですから内容についてはよくわからないという部分はあるんですけども、漁業サイドっていうのはなかなか観光だとか地域だとかっていう部分に触れる部分は少ないんですけども、うち網走湖・能取湖ありましてそこで水揚げされたものを直接市場に出して、どちらかというとな網走に出すよりも札幌近郊、旭川近郊に流れていっているというのが今の実状なんですけれども。

今の状況では、市役所さんの方の水産関係でですね、うちで獲れたものだとか網走で獲れたものについて、地域に親しみやすいようにという形で、今網走七珍とって、網走湖についてはわかさぎ・しじみ・しらうおだとか、そういう部分をですね年に一回なんですけれども、しらうおの時期になりましたら、一応ですね市内の郷土料理だとか、飲食店に一応無料配布して、なるべく地域のものという形で親しみをもってやってもらおうかなというのを水産の方と連携しながら進めていくという状況にはありますけれども。

あと大空町さんとうちも網走湖はですね大空町の住民が13人くらいいるんですけども、その中で大空町さんにもですね色々補助金だとか支援はいただいているという形で大空町さんについてはですね、また、しらうおの時期なんですけれども、一応そこでしらうお祭りだとかなんとかっていうのをやってもらっておりますので、そこでしらうおの提供だとかして、今のところやっているという状況で、この事業の中にちょっと盛り込んでもらえる部分があるのかなのかといたら、今のところちょっと思い浮かばないんですけども、今後なんかあれば参加させていただけないかなという形では思っておりますけれども。

【座 長】

はい。どうもありがとうございました。引き続き1次産業で、もしこの自立圏構想に盛り込むべき中身としてご指摘ありましたら。

【委 員】

私も産業振興ということで、農協職員ということで今回呼ばれたんだと思っております。私も今年から初めてということで、なかなかこの会の趣旨がいまわかろうとしているような状況なんですけども、産業振興ということで言えばですね、30ページに地域経済の活性化と雇用創出ということで、その中でも、新製品や新技術の開発などの取

り組みを商品化に向けた支援、販路開拓・拡大に関する事業を実施するということでのっているのですが、今回その大空町と網走市ということがセットで、この二つの町でどういったことができないのかということを考えるんだらうと思っていますけれども、あの我々JAグループの中ではですね農産物については、特に北海道の中では十勝というところが、ここより生産ロットが大きい地帯がありますけれども、農産物につきましては十勝ブランドというのが、北海道を代表するイメージとなっていて、ただあのここオホーツクの地帯もですね十勝に次ぐ生産ロットを持っている地帯でございます。

なんとかオホーツクの農産物を十勝ブランドみたいな形で、全国に発信していこうということで、実は管内JAの取り組みとして「From オホーツク」というロゴマークを作りましてですね、各JAが市場などに発送する段ボールに、そういった共通のロゴマークやなんかを入れて、まあオホーツクブランドというものをなんとか確立していこうということでいま取り組みをしているのですが、この大空町と網走市というところの中で、農業や色々第1次産業、主要産業になるわけなんですけど、そんな色々な産業への支援を考えるときに、ここの表現の中にですね、私前々から思っていることなんですけれども、十勝には無いオホーツクという海産物、磯に恵まれた海産物があり、そして十勝に次ぐですね生産ロットを持つ農産物があると。

ここがタグを組むような形でですね、全国に、この網走それから大空町まあオホーツクの農産物を発信していけるような、もう一つひねりを入れてですね、その取り組みを表現するなり、そこに対して支援するなりの考え方も一つあっていいのかななんて思っております。

それと、もう一点話されるんですけど、ここでは雇用の創出と書いてあるんですけど、私どもの農業分野というのはですね、私の担当しているのは女満別地区の農家の方々なんですけど、10年先見ますと、現在300戸ほどいる農家が60戸くらい減少するのかなとみています。

ただ、それぞれ離農された方の農地というのは、女満別の場合、中山間地みたいなものはありませんので、それぞれ引き受け手がいて、耕作放棄地が出るという状況ではないんですが、戸数が減ったとしても依然として30ヘクタール規模くらいにしかならないということで、やはりあの土地利用型作物だけ作っているだけではですね、生計が成り立たないということで、今もそれぞれの取り組んでおりますけれども、野菜の生産そういったもので所得の確保をしていくということを将来、10年後はやっていかないといけないんだらうなというふうに考えております。

まあ現状はそうなんですけれども、ただ段々人が減っていく中でですね、野菜とかそういった作物作りますと、定植あるいは収穫時期にやっぱり人出なんです。

野菜とかは機械作業が出来ませんので、そこで農家さんで必要とする植え付けや収穫時の労働力の確保が非常に難しいという課題があります。

なんとかですね町内の主婦の方々を対象にですね、なんとか労働力を確保している

状況なんですけれども、このへん網走市までエリアを広げるとですね、これからこの労働力っていうのは主婦の労働力っていうのは本当に重要な位置を占めてくるのではないのかなと思っています。

そういった主婦の方たちが大空町・網走市のエリアの中で、そういった我々の農業分野なんかにもですね、労働力として入りやすいような、そんなような仕組み作りが出来ないのかなというふうに思っていることがあります。

ちょっとまとまりない話でしたけれども。

【座 長】

いえいえ。新しい生産展開の基礎条件を。

うちの農大生も随分女満別には学生アルバイトには行っていますけれどもまだまだ不足していますし、予て非常に大事な問題として指摘されていることなので、そういうのも合わせて考えていかないといけないと思っております。

後いかがでしょうか。まだご発言されていない方。

あのご指名はいたしませんけれどもご自由にどうぞ。

【委 員】

はじめてなもので、題にそった話ではないかもしれないんですけれども、観光の面です、細かい話なんですけれども、外国人誘致して、お客さんが来てくれるとは思いますが、その時にですね、一回来てやっぱりリピーターになってもらえたら一番ありがたいかなと思ひまして、そのためにはやっぱり言葉、日本語は大事ですけれども困ったときのための言葉ですね。

僕もあの網走で英語の講習だとか中国語講習を受けたことがあるんですけれども、そういったものもあるんですが、受け入れ側の外国語ではなかったんですね。

やっぱり観光に行く側の言葉の勉強だったものですから、こっち側、店側としての外国語の講習があれば一番ありがたいかなという感じはします。

とりあえずまあ細かい話なんですけど。

【座 長】

いえいえ全然。観光でも、この事業の一部にはありますしそのへんきちんと詰めていかなきゃいけない問題だと思いますけれども。

【委 員】

よろしいでしょうか。32 ページに地域公共交通ということで、網走バスがですね、大空町さんをはじめ色んなところで路線バス走らせていただいているんですけれども、ここのところでは維持・確保を図るためにとあるんですけれども、事業者としましてはそうしていただいて今も運行しているわけなんですけれども、いかに事業者

がもっと利用促進をしてですね路線バスを活用していただくかということで、今色々なことをやっております、こちらに今あるんですけどもよりわかりやすく利用していただきたいということで路線図のわかりやすさとかですとか、これ全路線図のっているんですけども、そういったものを今年の4月に配布いたしまして、まず乗り方がわからないですとかの、単純なお客様が沢山いらっしゃいまして、そういった方のためにフォローをしております。

その他にも、今、個別訪問といまして、お客様のところに一軒ずつ回りまして色々なご意見を聞きながら、バスの内容等サービス等を改善していくということ。あとバスの乗り方教室ということで7月にですね、これは当社が独自で小学校を対象に、バスの乗り方ももちろんなんですけれども、公共交通のあり方ですとか環境関係ですとか、あとは道徳・マナーそういったものが、小学生によりわかりやすくですね、説明できるような形でですね広げていきたいなということで今やっております、とりあえず二つの小学校、7月中にはやる予定です。

そういったことなども含めまして、先ほどおっしゃっていましたがけれども、通学で女満別からも沢山通われていますし、逆に行かれていますのでもしくはそういった教室ですとかそういったことで、夢を持っていただいでですね、今後公共交通ですとかそういったものに派生していけばいいのかなと思いますので、何かありましたら言っていただけましたら助かります、以上です。

【委員】

はい。交通でちょっと。大空の委員さんがいたら、その方が良かったと思うんですけども、高校生が東藻琴から網走の藻琴駅前降りて、お家の方がそこで自家用車でみんな待っているんですよ。

要するに東藻琴から帰ってきて、4時5時の時間帯で藻琴駅で降りて親御さん達が迎えに来るのがあるわけですよ。

それはうまくリンクされたバスが無い、もしくはそこを走っているバスが無い。

【委員】

そうなんです。当社としましては東藻琴の路線は無く、観光交通さんが走っております。

【委員】

そこからあの網走バスは、藻琴だとか北浜は走ってないんですか。

【委員】

いえ、走っています。斜里まで出しています。

【委員】

それを時間帯をうまく調整はできているのかな。

【委員】

一応それは検討してみますね。

【委員】

すいません。親御さん達が迎えに行くのが安全だとは思いますが、たぶんアクセスがうまくいっていないので親御さん達がそうせざるをえないのかなという気がしました。

【座長】

そのへんの交通アクセスの問題は非常に大きいわけですね。広域連携する場合、そういう交通インフラは整備されていなきや。

【事務局】

今の関係で全てではないと思いますが、一つにはスクールバスの存在がありまして、網走交通が東藻琴から網走方面に走ってくるバスに定期的に利用する高校生も乗れるということになってます。

その場合についても藻琴からは既存路線がありますので乗り換えるというか有料で乗っていかないといけないルールがあるんですけども、高校生の場合、逆にスクールバス時間が運行しているものですから小中学生の帰宅時間に合わせるわけです。そうすると帰りに高校生は乗れないという現象が出現しましてしかたがないので保護者が迎えに来るといった状況があるんだろうなと思っております。

それが一つなのかなというふうに思いました。

【座長】

はい。それも大事なところですね。あの農大のバスも7時55分が最終になるので、部活などをやっていたら研究室から帰れないですもんね。

それも含めていろいろな事ありますから。すいません。

おそらくそのへんの整理もしなければ、本当のね広域連携も出来ないだろうし、それは単に生徒・学生ばかりじゃなくて産業的なね、物の輸送を含めて全体的なやっばり組み立てをしなければならぬと思う。大事な問題になっておりますから。

【委員】

よく思うのが、潮見10丁目から学生さん沢山乗っていただくんですけども、マンションの壁際に並んで待っていますので、あそこにぜひ待合フード出来たらいいと

思います。ご協力お願いいたします。

【座 長】

どうでしょう。まだご発言されていない方何人かいらっしゃいますけれども、時間も押してきましたけれども、もしこれだけはこののがございましたらどなたか。

おそらく今回初めてという新しい委員の方もいらっしゃるし、なかなか共通の情報共有というのは難しいと思いますけれども、おおよその流れとですね、各分野ごとの取り組み、あるいはその協定の中身に関してはここにある通りなんですけれども、だいたいそういうことでよろしいでしょうか。

もちろんこれから議論して、それぞれの部署でまた改めて提案していただいでですね、組み立てといたしますか事業として仕組んでいくということになると思いますけれども。様々な意見、これはおそらく事務局でまとめるのは大変だろうと思うし、またあの少し整理していただいでですね、2番目のビジョンの案の検討終わりました、引き続き今後の懇談会の進め方について事務局の説明よろしいでしょうか。

(異議なし)

【座 長】

はい。それではよろしく申し上げます。

【事務局】

それでは、今後の懇談会の進め方についてご明をさせていただきたいと思います。

まず共生ビジョンの変更時期についてでございますけれども、今回事務局からの案を作成させていただきましたけれども、先ほどもご説明した通り平成 24 年度の事業にかかる決算額については、9月議会の議決を経て、次回 10 月の懇談会で反映させる予定であるということが一点でございます。

予て掲載しております統計のデータにつきましても、平成 25 年度中に発表される直近のものにつきましては、それぞれ更新をさせていただきたいというふうに考えております。

また、今回様々な貴重な意見をいただきましたけれども、事務局段階でお答えをしていますが、嘘は申しませんが間違っている部分があるかもしれません。

それらのことも含めてそれぞれ網走市・大空町において担当部局にフィードバックをさせていただきたいというふうに思っております。

その結果をふまえて、次回の懇談会については、その状況をご説明させていただいて、併せて、共生ビジョンの修正案をお示しをしたいというふうに考えておりますので、これらをふまえますと前年度と同様に平成 26 年 1 月、来年の 1 月をめぐりに共生ビジョンの変更をさせていただきたいというふうに考えています。

【座 長】

はい。平成 24 年度の決算額の掲載とそれから統計データの更新等ですね。要するに次回の懇談会で改めてお示し、事務局の方からお示しいただくということですがけれども、そのへんに関して何かご意見・ご質問等ありますでしょうか。

(質疑なし)

よろしいでしょうか。

【座 長】

よろしいでしょうか。それでは最後にこの議題の 6 番目その他でございますけれども委員の皆様から何かございますでしょうか。

もしございましたらご指摘よろしいでしょうか。

(質疑なし)

では事務局の方からよろしくお願ひします。

【事務局】

長い時間ありがとうございます。事務連絡ですけれども次回の懇談会につきましては再三申し上げておりますが 10 月を予定しております。

時期が近くなりました時点でご案内をさせていただきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

また委員の皆様には、懇談会出席にあたりましては、報酬と交通費実費を支給させていただいておりますので、先に郵送しております口座振替先等の確認書というのがあるかと思っておりますけれども、お帰りの際に事務局にお渡しいただければというふうに思っております。

本日お持ちでないという方につきましては、お手数ですが後日で結構ですので、事務局までお送りいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

なお報酬等につきましても、次回懇談会の分も含めてまとめて振込をさせていただきたいというふうに思っておりますので、ご承知置きをいただければと思います。事務連絡については以上です。

【座 長】はい。では 8 時過ぎましたけれども何かございましたら改めて事務局の方に連絡いただければですね検討させていただくということで、これで第 7 回の懇談会を終わりたいと思います。

長時間どうも皆さんありがとうございました。